

「研究開発型スタートアップ支援事業」  
(終了時) 制度評価報告書(案) 概要

目 次

分科会委員名簿 .....	1
評価概要(案) .....	2
評点結果 .....	4

## はじめに

本書は、NEDO技術委員・技術委員会等規程第32条に基づき研究評価委員会において設置された「研究開発型スタートアップ支援事業」（終了時）の研究評価委員会制度評価分科会（2024年9月12日）において策定した評価報告書（案）の概要であり、NEDO技術委員・技術委員会等規程第33条の規定に基づき、第79回研究評価委員会（2025年3月17日）にて、その評価結果について報告するものである。

2025年3月

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構  
研究評価委員会「研究開発型スタートアップ支援事業」  
（終了時）制度評価分科会

分科会長 各務 茂夫

「研究開発型スタートアップ支援事業」

(終了時) 制度評価分科会

分科会委員名簿

	氏名	所属、役職
分科会長	かがみ しげお 各務 茂夫	東京大学 大学院工学系研究科 教授
分科会長 代理	なかむら ひであき 中村 秀明	山口大学 大学院創成科学研究科 教授
委員	ささき ひろこ 佐々木 浩子	株式会社ポラリス 代表取締役
	もちづき あいこ 望月 愛子	株式会社経営共創基盤 取締役 CFO
	やすい くにひろ 安井 邦博	ブラザー工業株式会社 新規事業推進部 部長

敬称略、五十音順

# 「研究開発型スタートアップ支援事業」

## (終了時) 制度評価分科会

### 評価概要 (案)

#### 1. 評価

##### 1. 1 意義・アウトカム (社会実装) 達成までの道筋

本事業は、我が国の企業、大学、研究機関などが有する技術シーズの発掘から事業化までを一貫して政策的に推進することから、研究開発型スタートアップの創出、育成を図り、経済活性化、新規産業・雇用の創出につなげるものである。

アウトカム達成までの道筋に関しては、研究開発型スタートアップへの支援を外部環境の変化や中間評価での指摘事項を事業に反映することで、起業前から社会実装までシームレスに展開していることから、適切なものといえる。そして、スタートアップエコシステムの形成を促進したこと、特に認定 VC、カタライザーなどの制度・仕組みを通し、ディープテック・スタートアップを支援する VC やメンターのすそ野を拡大できたことは本事業の重要な貢献であり、高く評価できる。さらに、本事業が呼び水となり、資金獲得の難しい時期の出資調達として市場からリスクマネーが投入されてきたこと、そしてスタートアップが NEDO 支援を自らの成長の道しるべとして認識するようになったことも評価に値する。

また、知的財産・標準化戦略に関しては、スタートアップ支援の取組みとして、起業前や事業化の初期段階で事業化に必要な知財の確保や知財戦略の立案ができるよう、弁理士資格を持ったカタライザーの派遣などを通じた助言を行うことで、スタートアップの成長などにつなげていく活動が実施できている。

一方、今後の提言として、スタートアップ側がカタライザーの支援を受けたことによる効果の事例をアウトプットできると尚良いと考える。また、知的財産戦略の支援に関しては、更に積極的なコンサルティングなど、国際競争力という視点も踏まえて、仕組みの構築について検討いただきたい。

※VC : Venture Capital

## 1. 2 目標及び達成状況

アウトカム目標を達成するための取組については、設定された目標において、一定の成果を達成しており、本事業によって一段上のステージへの移行を支援する仕組みが有効に機能していると評価できる。特に STS 事業に関しては、事業の見直しによって大幅に目標を超える成果が得られており、シード期から次のステージに移行するスタートアップの成長に大きく貢献していることがわかる。

アウトプット目標及び達成状況については、各個別事業のアウトプット目標としてそれぞれ明確な数値目標が設定されており、ほぼすべての個別事業において目標を大きく上回って達成できたことは高く評価できる。中でも STS、PCA 採択事業者の約 80%、TRY の全事業者が次のステージの資金調達を実現しており、NEDO による支援がスタートアップの成長を支えるリスクマネーの呼び込みに寄与し、本事業がよく機能していると評価できる。

一方、評価・検証の取り組みは評価できるが、個別事業の検証に留まらず、事業全体のアウトカムについて、成果やその意義を高い視点から整理いただきたい。たとえば、成長ステージに応じた個別事業を継続的に活用している割合を把握できれば、スタートアップエコシステムの有効性を評価できると考える。また、グローバルな視点、評価指標の拡張、再チャレンジを前向きに評価するような仕掛けの検討など、常に一層の見直しを行っていただくことで事業を進化させ、日本経済や国際競争力、問題解決につなげることを期待する。

※STS : Seed-stage Technology-based Startups

PCA : Product Commercialization Alliance

TRY : Promotion of Technology Startups that Innovatively Respond to Economic Changes to Yield Social Benefits

## 1. 3 マネジメント

実施体制の構築に当たっては、各ステージにおいて適切な事業が実施され、関係者が多い中でマネジメントできたことが、アウトプット及びアウトカムの目標達成につながったと考える。外部環境の変化や中間評価での指摘の反映も適宜行われ、事業全体のマネジメントは良好であったと評価できる。特に、TCP による起業前の教育、カタライザー支援、認定 VC 制度を取り入れた STS によって、技術の目利きと事業の目利きの両輪がまわることで、スタートアップの資金の調達が容易になるなど、効果として表れている点も高く評価できる。

研究開発計画においては、採択テーマはステージに応じて設定され、シームレスに活用できるようになっており、事業化初期まで継続したメニューを提供している点は高く評価できる。2020 年度から NEP の支援規模と期間を拡大したタイプ B を開始するなど、中間評価における指摘を反映した事業の見直しも図られ、必要に応じた柔軟な事業拡充を実施したことも事業運営上評価できる。

一方、今後への提言として、グローバルな視点の醸成に向け、海外展開については、起業前など、より一層早い段階から海外を意識できるように指導する施策を期待する。また、地方の掘り起こしについても、より一層早い段階から力を入れることを期待したい。

※TCP : NEDO Technology Commercialization Program

NEP : NEDO Entrepreneurs Program

## 2. 評点結果

評価項目・評価結果	各委員の評価					評点
1. 意義・アウトカム（社会実装）達成までの道筋						
(1)アウトカム達成までの道筋	B	A	A	A	A	2.8
(2)知的財産・標準化戦略	B	B	B	A	B	2.2
2. 目標及び達成状況						
(1)アウトカム目標及び達成見込み	B	A	B	A	B	2.4
(2)アウトプット目標及び達成状況	B	A	A	A	B	2.6
3. マネジメント						
(1)実施体制	B	A	A	A	A	2.8
(2)研究開発計画	A	A	A	A	A	3.0

### 《判定基準》

A：評価基準に適合し、非常に優れている。

B：評価基準に適合しているが、より望ましくするための改善点もある。

C：評価基準に一部適合しておらず、改善が必要である。

D：評価基準に適合しておらず、抜本的な改善が必要である。

(注) 評点は A=3、B=2、C=1、D=0 として事務局が数値に換算・平均して算出。